

神戸市における類似制度の概要

この資料は、平成 25 年 4 月現在における神戸市ホームページの掲載内容を本市が編集・作成したものです。

1 敬老優待乗車制度（敬老パス）

（１）対象者

市内に住所を有する満 70 歳以上の方

ただし、心身障害などにより福祉パス・タクシー利用券を受けている方は除く。

（２）対象交通機関

- ・市バス
- ・市営地下鉄
- ・市内を運行する民営バス（神姫バス・神姫ゾーンバス・山陽バス・神鉄バス・阪神バス・阪急バス）
- ・神戸新交通（ポートライナー・六甲ライナー）

（３）乗車ごとの利用者負担額と敬老パス（ＩＣカード）の使い方

ア 乗車ごとの利用者負担額

- ・バス：100 円／回（1 乗車が 200 円未満の区間は、100 円を上限とした小児料金）
- ・地下鉄，ポートライナー，六甲ライナー：小児料金／回

イ 敬老パス（ＩＣカード）の使い方

- ・利用者負担額は、敬老パス（IC カード）によって支払っていただきます。
- ・一定金額（1,000 円単位で上限 20,000 円まで）を事前に駅などで敬老パスに入金（チャージ）していただきます。
- ・運賃支払いの際、地下鉄などの自動改札機やバスの読み取り部に敬老パスを当てると利用者負担額が自動的に引きさられます。

2 （低所得者対策）敬老無料乗車券

（１）対象者

市民税非課税世帯かつ本人の年収（課税年金収入と合計所得額の合計）が 120 万円以下の方

※敬老無料乗車券の交付を受けるには、事前に敬老パス（ＩＣカード）の交付を受けている必要があります。

（２）敬老無料乗車券の種類

次の①から⑤について、本人の選択により、複数の乗車券を組み合わせる選択をすることができます。この敬老無料乗車券を利用することで、バス均一区（バス 1 乗車 200 円の区間）の換算で、年 150 回程度乗車することができます。

①市バス均一区（乗車距離に関係なく 1 乗車が 200 円の路線）および、地下鉄全線が利用できる 共通磁気カード（額面 5,000 円で、大人普通料金での乗車になり、市バス普通区では 25 回分）
②市バスの近郊区（距離が長くなるに従って料金が上がる区間）路線でのみ利用できる紙乗車券 （1 冊 25 枚つづり）
③神姫バス・山陽バス・阪急バス・神鉄バスが利用できる紙乗車券（1 冊 25 枚つづり）
④阪神バスのみ利用できる紙乗車券（1 冊 25 枚つづり）
⑤ポートライナー・六甲ライナー共通磁気カード（240 円区間で 25 回乗車分）

3 （高頻度利用対策）定期券の割引購入制度

（１）概要

利用頻度が高い方は、敬老パス（ＩＣカード）とは別に定期券（通勤定期をベース）を、正規料金の半額で購入できます。

（２）対象となる定期

敬老パスの対象交通事業者（市バス、地下鉄、神姫バス、山陽バス、神鉄バス、阪神バス、阪急バス、ポートライナー、六甲ライナー）の発行している通常の通勤定期券（１ヶ月定期券、３ヶ月定期券または６ヶ月定期券）

※特定の割引定期券は除きます。

参考：交通事業者の収入等について

これまで神戸市から交通事業者へ乗車料金相当として約 35 億円を支払ってきました。しかし、制度の見直し前は 35 億円を払っても、交通事業者へは正規料金の約 3 割～4 割程度しか支払えておらず、民間バス事業者からは見直しが行われなければ制度から撤退するという申し入れを受けました。

平成 20 年度決算では、平成 20 年 10 月から利用者負担の導入に伴い、交通事業者は制度見直し前の平成 19 年度と比較して約 6.3 億円増収となっています。また、平成 23 年度決算では、制度見直し前の平成 19 年度と比較すると約 19.3 億円の増収となっています。なお、神戸市からの負担金は約 35 億円を維持しています。

＜参考：交通事業者収入（利用者負担と神戸市からの負担金の合計）＞

	市バス	地下鉄	新交通	民間バス	合計
平成 19 年度決算	26.5 億円	1.2 億円	1.2 億円	5.9 億円	34.8 億円
平成 20 年度決算	23.6 億円	7.1 億円	1.6 億円	8.8 億円	41.1 億円
平成 21 年度決算	21.2 億円	12.8 億円	2.1 億円	11.6 億円	47.7 億円
平成 22 年度決算	22.0 億円	13.8 億円	2.4 億円	12.7 億円	50.9 億円
平成 23 年度決算	23.1 億円	14.8 億円	2.5 億円	13.7 億円	54.1 億円

※平成 20 年 10 月から利用者負担の導入

※民間バスは 5 社